



**私** たちが住んでいる  
金沢には、ずっと昔から

人が住んでいました。その人たちは  
現代の私たちに、すてきなおくりものを  
残してくれました。昔の人たちが住んでいた家の  
跡や、使っていた道具などが地面の中に埋まって  
いるのです。

昔の人たちが残してくれた『タイムカプセル』、  
それが「遺跡」なのです。金沢市内には約600  
箇所の「遺跡」が知られています。



**遺跡を発掘するとなにがわかるの？**

**遺** 跡を掘って調査することを「発掘」とい  
ます。発掘をすると昔の人たちの生活が  
わかってきます。どのような家に住んでいたのか、  
何を食べていたのか、どのような道具や食器を使  
っていたのか……。遺跡の発掘は、まるでタイム  
カプセルを開けるようなものなのです。

**遺構ってなに？**



**表** ひょう 土を取り除いたあと、地面を平らに  
けず 削ると、地面に四角や丸の黒い

模様浮かび上がってきます。この場所を掘り  
下げると、昔の人たちが住んでいた家やお墓、川  
の跡などが現れます。これら昔の人たちの生活の  
跡を「遺構」と呼んでいます。

**遺物ってなに？**



**遺** 跡からみつける土器や石器など、昔の人  
たちが使っていた道具類をまとめて「遺物」  
と呼びます。遺物の中で、土器と石器はよく残っ  
ていますが、もつき きんぞくき こっかくき くさ 木器・金属器・骨角器は腐りやすい  
ので、残っている遺跡は限られています。

また、遺跡からみつける遺物の多くは、割れた  
り壊れたりしていますが、なかにはまったく壊れ  
ずに出てくることもあります。

# 市内遺跡・史跡マップ



## ? 史跡ってなに?

**み** なさんは、『史跡』ということばから何を思い浮かべますか？

『史跡』とは、国や県、市町村により、歴史を知るうえで重要と認められた場所(遺跡)や建物のことです。「金沢城跡」や「加賀藩主前田家墓所」のように建物や石垣などを地上でみることもありますが、「チカモリ遺跡」のように地下に埋まっていて、直接みることができないものもあります。

史跡は、その重要さによって、「国指定史跡」・「県指定史跡」・「市指定史跡」にわけられます。とても大切なものなので、壊したり、許可を得ないで地面を掘ったりすることは、法律などで禁止されています。

史跡のなかには、歴史的な価値を多くの方々に知ってもらうために、公園や見学施設を設けているところもあります。ぜひ出かけてみて、金沢の歴史をじかに感じてください。

# 縄文時代



## 定住と土器

縄文時代は、土器が初めてつくられた時代で、今からおよそ1万2千年ほど前から約1万年間続きました。縄文時代という名前は、はじめに縄で文様をつけた土器がたくさんみつかったことから名付けられました。

当時の人たちは、地面を掘りくぼめて床と壁をつけた「竪穴住居」に住んでいました。床につくった炉で煮炊きをし、明かりとしても利用していました。地面に穴を掘って柱をすえた「掘立柱建物」もあり、チカモリ遺跡からは建物の柱がたくさんみつっています。

食事は木の実を粉にしてつくったダンゴやパン、弓や槍を使った狩りでとらえたシカやイノシシ、漁でとれた魚や貝などを食べていました。

服は残念ながら残っていませんが、「土偶」という土でつくられた人形から想像することができます。北塚遺跡や三小牛ハバ遺跡からは、大変めずらしい当時のペンダントや指輪がみつっています。

中屋サワ遺跡の川跡からは、木器がたくさんみつっています。その中でも、漆の製品は当時の高い技術を今に伝える貴重な資料となっています。



柱根/チカモリ遺跡  
(石川県指定文化財)



「の」字状石製品/三小牛ハバ遺跡  
(金沢市指定文化財)



籃胎漆器/中屋サワ遺跡  
(国重要文化財)

# 弥生時代



## 稲作と金属器

大陸から金属器が伝わると、人々の暮らしも大きく変わりました。田畑をつくり、稲作を中心とする社会が発展します。しかし、洪水や干ばつなど、安定した収穫がむずかしかったため、狩りや採集にも頼っていたようです。土地や種もみ、鉄製の道具などをめぐって争いも起こりました。石製や金属製の鏃など武器の発達、濠をめぐらせた環濠集落は争いが多くなったことを物語っています。

この時代の人たちは、竪穴住居や平地式建物、掘立柱建物で生活していました。貧富の差、身分の差も生まれ、それはお墓にもよくあらわれています。穴を掘っただけの簡単な土坑墓のほかに、富める人が埋葬された周りを四角く溝で囲った方形周溝墓がみつっています。

遺物では土器や石器のほか、銅鏡・銅鏃や鉄斧などの金属器、田を耕す鍬や鋤、桶や杵、高杯などの木器が出土しています。細かい細工から、鉄製の工具が使われていたことや、優れた技術をもっていたことがわかります。管玉や勾玉といった石製のアクセサリーもさかんにつくられていました。寺中遺跡からみつかった獣形の勾玉は、とても大きく立派なものです。



銅鏡・銅鏃/無量寺B遺跡  
(金沢市指定文化財)



獣形勾玉/寺中遺跡  
(金沢市指定文化財)



銅鏃・銅鏡/大友西遺跡  
(金沢市指定文化財)

## 土器のうつりかわり

約12000年前～

約2700年前～



中屋サワ遺跡出土(国重要文化財)



西念・南新保遺跡出土(金沢市指定文化財)

縄文土器は個性的で立体的。とても複雑な模様のももあります。

縄文時代

米を炊くための土器は薄くつくるなど、目的によってつくりわけています。

弥生時代

# 古墳時代



## 統一と権力誇示

3世紀中頃～7世紀頃は豪族が自分の権力を古墳の形や大きさであらわそうとした時代です。日本の各地で、支配地を見下ろす高台や、平地でも目立つ場所が選ばれ、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがつくられました。墓穴や棺には副葬品として、権力の象徴である鏡や玉類、武器などが入れられました。時代が新しくなると小さな古墳や横穴がまよってつくられるようになります。金沢市の平野部では、おまる塚古墳やびわ塚古墳などがあります。墳丘が削られてしまった古墳が多いので、現存するこれらの古墳はとても貴重です。



古墳の副葬品／神谷内古墳群



おまる塚古墳  
(金沢市指定史跡)



びわ塚古墳  
(金沢市指定史跡)

この時代から、土器は日本中ほぼ同じ形になります。これを土師器といいます。また、5世紀には朝鮮半島から、須恵器という灰色で硬い土器を焼く新しい技術が伝わりました。調理をするためのカマドも伝わり、人々の食生活も変化しました。沖町遺跡では、溝で囲まれた建物群跡が見つかっています。



たてもぐんあと おきまち  
建物群跡／沖町遺跡

# 飛鳥・奈良・平安時代



## 寺院と荘園

7世紀後半には「律令」と呼ばれる法律がしだいに整備され、天皇を中心とした政治が行われるようになります。地方では都から派遣された役人が政治を行い、庶民から税をとりたて、都に物資を送っていました。それらが天皇や貴族たちの生活を支え、都には華やかな文化が花開きました。

奈良時代になると都の大寺院や貴族たちは「荘園」と呼ばれる私有地をたくさん持ち、その収入で豊かな生活を送っていました。上荒屋遺跡は東大寺が持っていた荘園を管理する施設です。この頃の人たちは、須恵器や土師器、木の椀や皿などを食器として使っていました。食器には文字が書かれているものがあり、「墨書土器」といいます。「木簡」という文字が書かれた木の札が見つかることもあり、当時の暮らしを知るうえで貴重です。



ぼくしょ どき かみあらや  
墨書土器／上荒屋遺跡  
(石川県指定文化財)



もっかん かみあらや  
木簡／上荒屋遺跡  
(石川県指定文化財)

奈良時代後半になると仏教が地方に広まってきました。三小牛ノバ遺跡は山で修行するための寺跡で、仏教に関わる様々な遺物が見つかっています。21世紀美術館の位置にあった広坂遺跡では、都で使われた瓦と同じ文様の瓦が大量にみつかりました。



こたいがわら ひろさか  
古代瓦／広坂遺跡

西暦250年ごろ～

西暦592年～



敵田・寺中遺跡出土

弥生土器をうけつた土師器に、朝鮮半島から伝わった須恵器が加わります。

古墳時代



上荒屋遺跡出土(石川県指定文化財)

土師器と須恵器がさかんに使われます。

飛鳥・奈良・平安時代

## 武士と一向一揆

鎌倉時代になると、武士中心の社会へとかわってきます。有力な武士は堅田B遺跡のような堀で囲まれた館に住みます。館からは食器などの生活用具のほか、馬具や武具、将棋の駒や羽子板などもみつかりました。般若心経の書かれた「巻数(勸請)板」は、当時の民俗行事を示す貴重な資料です。中国製の陶磁器や中国銭も多くみつかったことから、貿易がさかんであったことがわかります。



上:巻数(勸請)板(石川県指定文化財) 下:レプリカ/堅田B遺跡

この時代には新しい仏教が生まれ、武士や農民に広がりました。加賀では、浄土真宗(一向宗)の信仰で団結した農民たちが、国を管理していた守護に抵抗するようになり、1488年に一向一揆を起こしました。若松本泉寺を拠点とした一揆衆は、守護富樫政親を高尾城で打ち滅ぼします。一揆衆はのちの金沢城の一面に金沢御堂とよばれる寺院をつくり、加賀一国を支配しました。

戦国時代になると、軍事の拠点として、国境近辺や街道沿いに山城が築かれます。国史跡・加越国境城跡群や堅田城跡は、その代表的なものです。



御廟谷  
(富樫氏に関する五輪塔などの石塔)  
(石川県指定史跡)

堅田城跡(主郭と切岸)  
(金沢市指定史跡)

西暦1185年～



堅田B遺跡出土(石川県指定文化財)

中国の陶磁器や漆塗りの製品がみつかります。

鎌倉・室町・戦国時代

## 城下町と物の流れ

徳川家康が開いた江戸幕府が全国の大名を治めていた時代です。前田家は加賀・能登・越中の国を治めた全国最大級の大名でした。

金沢城下町は城を中心につくられ、防御のため2重の惣構で囲まれていました。現在も用水として残っており、城下町の発展する姿を示す貴重なものです。

金沢城下町は、約260年の間に4回も大火にあいました。寛永8年(1631)と12年の大火では1万戸以上の家が焼けました。広坂遺跡ではこの火事で焼けた陶磁器がみつかります。

寛永の大火がきっかけとなって、武家屋敷や町家の位置が整理され、城下町の骨格がこの頃に完成しました。犀川上流から金沢城へ辰巳用水が引かれ

たほか、長坂用水により泉野台地にも田畑が広がるなど、金沢の用水網が整えられています。

経済の発展とともに城下町は拡大しました。この時代の遺跡から発掘される食器の多くは九州で焼かれた陶磁器ですが、京都や東海・関東・沖縄のものもあり、当時の全国的な物の流れや人の交流を知るうえで貴重な資料となっています。



金沢城惣構跡  
(金沢市指定史跡)



長屋門跡と土塀基礎  
/ 広坂遺跡



長坂用水法師の隧道  
(金沢市指定史跡)

西暦1603年～



広坂遺跡出土

全国各地のさまざまな陶磁器がみつかります。

江戸時代

# くに してい し せき 国指定史跡

## ちかもり い せき チカモリ遺跡 (昭和62年2月23日指定)

チカモリ遺跡は、縄文時代後期～晩期のムラ跡です。調査により300本以上の柱根(柱の根元)が発掘されました。その中でも、太いものでは直径80cm以上あるクリの木を半分に割り、直径約6mの円形に8～10本を配置した建物は、何に使ったかわかっていませんが、全国的にも注目を集めました。

遺跡の中心部は「チカモリ遺跡公園」として整備され、木柱も復元されています。金沢市埋蔵文化財センター内にある「金沢縄文ワールド」や、遺跡公園の隣にある「金沢市埋蔵文化財収蔵庫」には、チカモリ遺跡から出土した遺物などが展示されており、柱根57点については昭和61年に石川県指定文化財に指定されています。



円形に木柱を配置した建物跡

## とう だい じ りょう よこ えの しょう い せき かみ あら や い せき 東大寺領横江荘遺跡 (上荒屋遺跡) (平成18年7月28日指定・平成28年10月3日追加指定)

上荒屋遺跡は、奈良・平安時代の荘園跡です。調査により、荘家跡(荘園の管理施設)と推測される建物跡が見つかりました。川跡から「綾庄」「東庄」などの荘園名を記した墨書土器や稲の管理を示す木簡(木札)が出土したことで、白山市の国指定史跡「荘家跡」と同様に東大寺領横江荘の一部であることが判明しました。

出土品は、荘園の様子を知るための重要な資料となっており、平成23年には1,131点が石川県指定文化財に指定されています。現在、遺跡の中心部は当時の景観を立体的に復元した「上荒屋史跡公園」として市民の憩いの場となっています。



公園内に復元された「莊家」と「川」

## か えつ くに ざがい しろ あと ぐん およ みち 加越国境城跡群及び道 (平成27年10月7日指定)

金沢市の切山城跡、金沢市と小矢部市にまたがる松根城跡、城をつなぐ古道「小原越」で構成されます。両城は構造や出土品などから、1584(天正12)年頃に築城もしくは改修されたとみられます。

1584年の「小牧・長久手の戦い」に連動した戦いで、前田利家勢は切山城、佐々成政勢は松根城に陣取り、二つの城が小原越の往来を遮る形で築かれたことが発掘調査でわかりました。翌年、佐々が降伏し、越中の一部が前田家に与えられ、城は廃止されました。

使用期間が短く築城時期が特定できる両城は、戦国から近世初めへの変遷を知るうえで大変貴重な遺構となっています。

松根城イメージ図  
(松根町ほか)



切山城イメージ図  
(桐山町ほか)

# くに 指定 史跡

## かな ざわ じょう あと 金沢城跡 (平成20年6月17日指定)

金沢城跡は、金沢市中心部の小立野台地先端部にあります。戦国時代には一向一揆の中心施設だった金沢御堂(浄土真宗のお寺)がありましたが、織田信長家臣の柴田勝家に攻め落とされ、佐久間盛政が初めての城主となって整備をはじめました。その後、前田利家が城主となってからは、江戸時代の終わりまで前田家の居城として、加賀藩の政治・文化の中心となりました。城内には、高い技術で構築された様々な時期の石垣がみられ、国重要文化財の石川門、三十間長屋、土蔵(鶴丸倉庫)が残っています。また、近年は五十間長屋や菱櫓、橋爪門、河北門、いもり堀、玉泉院丸庭園などが復元整備されています。



石川門

## か が はん しゅ まえ だ け ぼ しょ 加賀藩主前田家墓所 (平成21年2月12日指定)

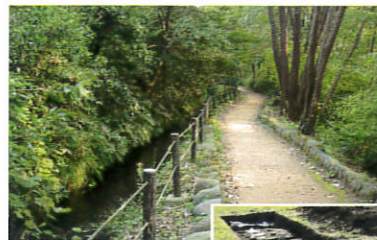
金沢市南部の野田山墓地の最も高い場所には、江戸時代に加賀国・能登国・越中国(現在の石川県と富山県の一部)の大名であった加賀藩主前田家の墓所があります。初代前田利家をはじめとした藩主の墓は土を階段状に盛り上げた形で、上から見ると1辺約16mの正方形となっています。このような形の大名墓は全国的にも珍しく、歴代藩主とその家族の墓が80基以上造られた墓所は、加賀百万石の大名家の歴史を感じさせる貴重な文化財として、富山県高岡市の前田利長墓所とともに国の史跡に指定されています。



初代加賀藩主 前田利家墓

## たつ み よう すい つけたり つっ ちよう ず えん しょう ぐら あと 辰巳用水 附 土清水塩硝蔵跡 (平成22年2月22日指定・平成25年3月27日追加指定)

辰巳用水は、江戸時代初めに金沢城へ水を引くためにつくられました。犀川上流の取水口は、江戸時代に2度上流へと付け替えられました。長さ約11kmの用水は主に上流部で隧道(トンネル)、中・下流部で開きよ(ふたをしていない水路)となりました。上流では、山肌に長さ約260mの石垣(三段石垣)を築き用水を守りました。丘の上にある金沢城へ水を引くため、兼六園と城の間にあった百間堀の土橋に木樋(木製の管、のちに石製の管に改修)を通し、「逆サイフォンの原理」という特殊な技術を使っています。「土清水塩硝蔵跡」は、辰巳用水の水流を使って火薬を作っていた施設の跡で、全国的に貴重なものです。



辰巳用水中流部  
(涌波一丁目付近)



土清水塩硝蔵跡  
土蔵の基礎石  
(涌波町)



## 金沢市埋蔵文化財センター(金沢縄文ワールド)

開館時間／午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休館日／月曜日(※祝日の場合は開館し、直後の平日に休館します)・年末年始  
※展示資料整理のため臨時休館有り(お問い合わせください)

入館料／無料

交通案内／◇北陸自動車道金沢西インターチェンジから車で約5分

◇JR金沢駅から北陸鉄道バス『倉部』行きに乗車(約35分)  
中屋バス停下車、徒歩約10分

◇兼六園下から北陸鉄道バス『上荒屋西』または『いなほ工業団地』  
行きに乗車(約30分) 上荒屋バス停下車、徒歩約5分

国指定史跡・チカモリ遺跡出土の柱根および縄文時代の高度な技術を示す重要文化財・中屋サワ遺跡出土品を展示しています。縄文体験コーナーもあります。



## 金沢市埋蔵文化財収蔵庫

開館時間／午前9時30分から午後4時30分まで

休館日／月曜日(※祝日の場合は開館し、直後の平日に休館します)・年末年始  
※展示資料整理のため臨時休館有り(お問い合わせください)

入館料／無料

交通案内／◇北陸自動車道金沢西インターチェンジから車で約5分

◇兼六園下から北陸鉄道バス『上荒屋西』または『いなほ工業団地』  
行きに乗車(約25分) 新保本町バス停下車、徒歩約10分

お問合せ／TEL 076-240-2371

国指定史跡・チカモリ遺跡から出土したものを中心に、市内の遺跡から出土した土器や石器などを展示しています。



表紙写真

- ① 金沢城跡(国史跡)
- ② 西条・新保遺跡 木製高杯(市指定文化財)
- ③ 神谷内古墳群 透瓦文様
- ④ 金沢城下町遺跡 透瓦りのくし
- ⑤ 中屋サワ遺跡 縄文土器(国重要文化財)
- ⑥ 北塚遺跡 石製装飾品(市指定文化財)
- ⑦ 三小中ハV遺跡 墨書土器
- ⑧ 出置じいさま遺跡 勾玉・管玉・玉作関連遺物



金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374 石川県金沢市上安原南60番地  
TEL 076-269-2451 FAX 076-269-2452



金沢縄文ワールドのなかまたち